



財務担当取締役メッセージ

「成長」と「稼ぐ力」で企業価値向上へ

財務担当
取締役副社長執行役員
藤原 正樹

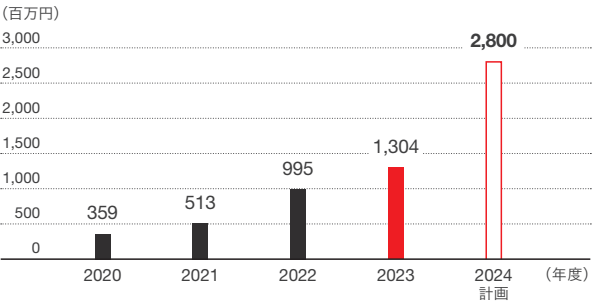
三社電機グループは、2024年4月から新中期経営計画（2024年度～2026年度）を策定し、推進しております。今回の中期経営計画は、10年後に迎える100周年においてありたい姿を明確に描き、その実現に向けた経営基盤の強化をバックカasting方式で策定しました。中期経営計画のキャッチフレーズは「Create the Future」であり、事業戦略と併せて、サステナビリティ戦略、財務戦略の3つの柱で構成されています。この中期経営計画は、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた取り組み」として2024年5月に開示しました。

中期経営計画を通じて、「成長」と「稼ぐ力」を実現し、企業価値の向上を目指してまいります。「成長」という側面では、カーボンニュートラル社会という重大な社会課題に対して貢献できる新製品を継続的に打ち出すとともに、お客様にその製品の価値を理解いただき、価値を提供し続けることを実践していきたいと考え

ています。特に、電力変換効率とCO₂削減に重点を置いた製品開発を進めており、これにより市場での競争力を強化し、企業の持続的成長を促進していきます。一方で「稼ぐ力」については、付加価値の高い製品の販売に加えて、標準化の推進によりモノづくりの効率化を図り、利益を高めてまいります。具体的には、投資した資産（有形資産・無形資産）が確実にリターンに繋がるよう全社を挙げて取り組んでまいります。

有形固定資産については、10年後の売上高500億円を目指し、増産や合理化・効率化投資を中心に検討しておりますが、投資に対するリターンを検証し、「稼ぐ力」にどの程度寄与しているかを確認しながら進めてまいります。また、無形固定資産については、人的資本経営を重視し、人材の確保と育成に力を入れます。社員一人一人が価値創造型の人材となることを目標に人材育成を進め、生産性向上とイノベーションの促進を目指して

設備投資額の実績と計画



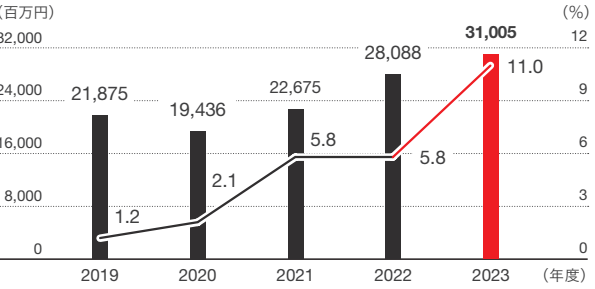
まいります。また、研修やキャリア開発の支援を通じて、社員のスキル向上を図ります。

財務指標につきましては、2023年度の自己資本利益率(ROE)は13.0%と株主資本コストを上回る水準となりました。しかしながら、2023年度は、大型の特殊案件が大きく寄与し、相応に高い付加価値を認めていただいた結果であり、今後3ヵ年の中期経営計画では同様の案件が現時点では見通せないため、株主資本コストを下回るROEの水準を想定しております。この状況を改善するため、全社一丸となって生産・販売・技術の一体化を図り、株主資本コスト以上のROEの早期達成を目指します。目標としては、ROE10%以上を掲げ、これを現場で実践するために営業利益ベースの総資産利益率(ROA)10%以上の目標を明確にし、総資産回転率の改善と営業利益の確保に努めてまいります。具体的には、成長領域での新製品展開やグローバル視点での販売強化、それを実現するため開発・生産体制づくりを推進し、成長軌道に乗せることを目指しています。

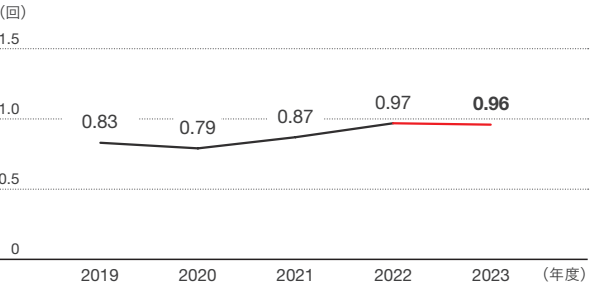
また、一人当たりの付加価値（限界利益）の向上に努め、収益面での改善を図ってまいります。製品ポートフォリオの最適化も進めるとともに、コスト管理、資産効率の改善にも注力し、持続可能な成長を実現してまいります。

さらに、事業活動における利益を意識した活動を通じて得られた剰余金につきましては、次なる成長に向けた投資（設備、人材）を計画的に実施すると同時に、株主還元をバランスよく継続していくことを考えております。株主還元については、配当還元を中期経営計画の3ヵ年において、配当性向30%もしくは1株当たり年間配当金額40円のいずれか高い方での還元を実施してまいります。これにより、株主の皆様の期待に応えるとともに、企業価値の向上を目指してまいります。

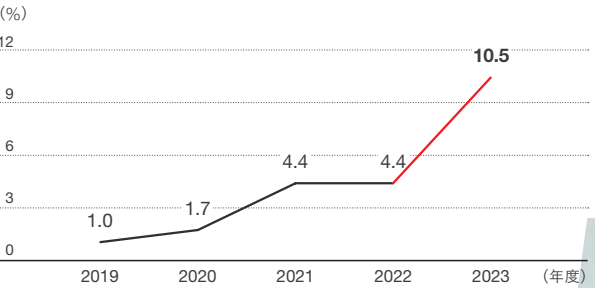
売上高/売上高営業利益率



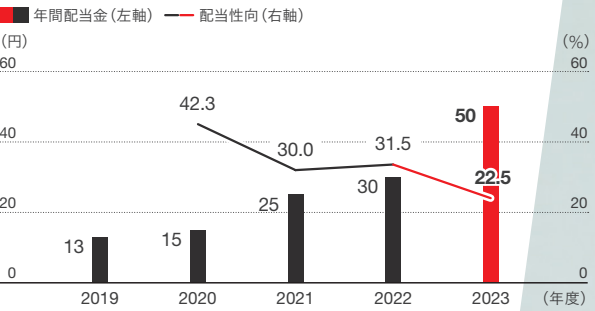
総資産回転率



営業利益ベースの総資産利益率(ROA)



年間配当金と配当性向



※ 2019年度の配当性向は、親会社株主に帰属する当期純損失であるため記載していません。